



## コンテンツ制限を使用したアクセス制御

主要な検索エンジンやコンテンツ配信サービスは、検索結果と Web サイトのコンテンツを制限できる機能を提供しています。たとえば学校では、「子どもをインターネットから保護する法律」（CIPA）を順守するために、コンテンツ制限機能を使用します。

コンテンツ制限機能は、検索エンジンやコンテンツ配信サービスで実行する場合には、個々のブラウザやユーザを対象にしか実施できません。FirePOWER システムは、これらの機能をご使用のネットワーク全体に拡大できます。

このシステムにより、以下を実施できます。

- **セキュア検索**：多くの主要な検索エンジンでサポートされているこのサービスは、特定の環境（ビジネス、行政、教育など）で不愉快であると分類されている、露骨なアダルト向けコンテンツを除外します。システムは、サポートされている検索エンジンのホームページへのユーザのアクセス機能は制限しません。YouTube 制限付きモードは、セーフサーチのサブ機能であることに注意してください。
- **YouTube EDU**：このサービスは、教育環境向けに YouTube コンテンツをフィルタリングします。これにより学校は、教育的なコンテンツへのアクセスを設定しながら、非教育的なコンテンツへのアクセスを制限できます。YouTube EDU は YouTube 制限付きモードとは別の機能であり、Google のセーフサーチ機能の一部として YouTube 検索に対する制限を実施します。YouTube EDU を使用すると、ユーザは標準の YouTube ホームページではなく、YouTube EDU ホームページにアクセスします。

コンテンツ制限機能は、検索またはコンテンツ照会の制限状態を、要求 URI の要素、関連する Cookie、またはカスタム HTTP ヘッダー要素により通信します。システムがトラフィックを処理するときに、これらの要素を変更するためのアクセスコントロールルールを設定できます。

コンテンツ制限を実施するために、SSL ポリシーを有効にする必要もありますが、これはパフォーマンスに影響を与えることに注意してください。

これらのアクセス コントロールルールに対して接続イベントのロギングを有効にすると、システムは [Reason] が [Content Restriction] の関連イベントをログに記録します。

- [アクセス制御ルールのセーフサーチ オプション](#) (2 ページ)
- [アクセス コントロールルールを使用したコンテンツ制限の実施](#) (2 ページ)
- [アクセス制御ルールの YouTube EDU オプション](#) (4 ページ)

- [コンテンツ規制ルールの順序 \(4 ページ\)](#)

## アクセス制御ルールのセーフサーチ オプション

Firepower System は、特定の検索エンジンのセーフサーチ フィルタリングにのみ対応していません。サポートされる検索エンジンのリストについては、アクセス コントロール ルール エディタの [Applications] タブにある、[safesearch supported] とタグ付けされているアプリケーションを参照してください。サポートされない検索エンジンのリストについては、[safesearch unsupported] とタグ付けされているアプリケーションを参照してください。

アクセス コントロール ルールに対してセーフサーチを有効にするには、次のパラメータを設定します。

### セーフサーチを有効にする

このルールに一致するトラフィックに対して、セーフサーチフィルタリングを有効にします。

### サポートされない検索トラフィック

サポートされていない検索エンジンからのトラフィックを処理するときにシステムが取るアクションを指定します。[Block] または [Block with Reset] を選択した場合は、システムが制限付きコンテンツをブロックしたときに表示する HTTP 応答ページも設定できます。[ブロックされた URL のカスタム Web ページの表示](#)を参照してください。

## アクセスコントロールルールを使用したコンテンツ制限の実施

ライセンス：任意



**注意** ルールのプリエンプションを避けるため、SSL とアクセス コントロール ポリシーの両方で、YouTube EDU を制御するルールは、セーフサーチを制御するルールの上に配置します。詳細については、[コンテンツ規制ルールの順序 \(4 ページ\)](#) を参照してください。

アクセス コントロール ルールを使用してコンテンツ制限を実施する方法：

**ステップ 1** SSL ポリシーを作成します。[基本 SSL ポリシーの作成](#)を参照してください。

**ステップ 2** セーフサーチと YouTube EDU のトラフィックを処理するための SSL ルールを追加します。

- ルールの [Action] として [Decrypt - Resign] を選択します。システムは、コンテンツ制限処理にこれ以外のアクションは許可しません。
- [Applications] タブで、選択内容を [Selected Applications and Filters] リストに追加します。

- セーフサーチ : [safesearch supported] フィルタを追加します。
- YouTube EDU : [Available Applications] リストで「YouTube」を検索し、結果のアプリケーションを追加します。

詳細については、[アプリケーションベースの暗号化トラフィックの制御](#)を参照してください。

- ステップ3** 追加した SSL ルールのための、ルールの位置を設定します。クリックしてドラッグするか、または右クリックメニューを使用してカットアンドペーストを実行します。
- ステップ4** アクセスコントロールポリシーを作成または編集して、SSL ポリシーとアクセスコントロールポリシーを関連付けます。[アクセス制御への他のポリシーの関連付け](#)を参照してください。
- ステップ5** アクセスコントロールポリシーでは、セーフサーチと YouTube EDU トラフィックを処理するためのルールを追加し、セーフサーチルールを YouTube EDU ルールの後に配置します。

- ルールの [Action] として [Allow] を選択します。システムは、コンテンツ制限処理にこれ以外のアクションは許可しません。
- [Applications] タブで、セーフサーチ (🔒) または YouTube EDU (🎓) のいずれかの淡色表示されているアイコンをクリックして、関連オプションを設定します。ルールに [Allow] 以外の [Action] を選択すると、これらのアイコンは淡色表示されるのではなく無効になります。

(注) 同じアクセスコントロールルールに対してセーフサーチと YouTube EDU の制限を有効にすることはできません。

- [Applications] タブで、[Selected Applications and Filters] リストのアプリケーション選択を絞り込みます。

たいていの場合、セーフサーチまたは YouTube EDU を有効にすると、[Selected Applications and Filters] リストに適切な値が入力されます。セーフサーチまたは YouTube アプリケーションを有効にしたときにそれらの機能がすでにリストにある場合、システムはリストへの自動入力を行いません。予期したとおりにアプリケーションが入力を行わない場合は、それらを以下のように手動で追加します。

- セーフサーチ : 検索エンジンフィルタを追加します。
- YouTube EDU : [Available Applications] リストで「YouTube」を検索し、結果のアプリケーションを追加します。

詳細については、[アクセスコントロールルールへのアプリケーション条件の追加](#)を参照してください。

- ステップ6** 追加したアクセスコントロールルールに対してルールの位置を設定します。クリックしてドラッグするか、または右クリックメニューを使用してカットアンドペーストを実行します。
- ステップ7** システムが制限付きコンテンツをブロックするときに表示する**ブロック応答ページ**を設定します。[ブロックされた URL のカスタム Web ページの表示](#)を参照してください。

次のタスク

次の作業

設定変更を展開します。[設定変更の導入](#)を参照してください。

## アクセス制御ルールの YouTube EDU オプション

アクセス コントロール ルールに対して YouTube EDU を有効にするには、次のパラメータを設定します。

### YouTube EDU の有効化

このルールに一致するトラフィックに対して、YouTube EDU フィルタリングを有効にします。

### カスタム ID

学校または地域のネットワークを固有に識別する値を YouTube EDU イニシアチブに指定します。YouTube は、学校または地域が YouTube EDU アカウントの登録をすると、この ID を提供します。



(注) [Enable YouTube EDU] をオンにした場合は、[Custom ID] を入力する必要があります。この ID は、YouTube によって外部に定義されます。システムは、YouTube システムに対するユーザの入力内容は検証しません。無効な ID を入力すると、YouTube EDU の制限が予期したとおりに実行されない場合があります。

## コンテンツ規制ルールの順序

SSL とアクセス コントロール ポリシーの両方でルールのプリエンプションを避けるため、YouTube の制限を制御するルールは、セーフサーチ制限を制御するルールの上に配置します。

アクセス コントロール ルールに対してセーフサーチを有効にする場合、システムは検索エンジンのカテゴリを [Selected Applications and Filters] リストに追加します。このアプリケーション カテゴリには YouTube が含まれます。結果として、YouTube EDU がさらに上位の評価優先順位を持つルールで有効にされていない限り、YouTube トラフィックはセーフサーチ ルールに一致します。

同様のルールのプリエンプションは、セーフサーチ サポート フィルタを持つ SSL ルールを、評価順序内で特定の YouTube アプリケーション条件を持つ SSL ルールよりも高い順序に配置した場合に生じます。

詳細については、[パフォーマンスを向上させプリエンプションを回避するためのルールの順序付け](#)を参照してください。